

トーマス・W・マイヤース (著)
松下松雄 (訳)

「アナトミー・トレイン」 徒手運動療法のための筋膜経線

石井慎一郎
(神奈川県立保健福祉大学理学療法専攻)

●筋膜系の連結と全身的な運動機能との関連に迫る

「アナトミー・トレイン」と聞いて、最初は何のことだかさっぱりわからず、解剖の語呂合わせを集めた学生向けのテキストだという認識しか持てなかった。

たまたま、トーマス・マイヤース氏と話す機会があり、マイヤース氏の解剖学的知見を知り、アナトミー・トレインの概念が理学療法士の臨床推論の幅を大きく広げてくれるものであると確信した。

マイヤース氏は、アイダ・ロルフ博士に師事しロルフリング(Rolfing®)と呼ばれる筋・筋膜系の徒手療法を専門的に行うロルファーとしての臨床経験を豊富に持ち、その中で経験した多くの臨床推論の理論的根拠を解剖学的手法によって解明しようとしている優れた臨床家であり、研究者である。このことが、筋膜系の連結構造に、生き生きとした躍動感のある機能的意味付けを発見できた理由だろうと筆者は考える。

アナトミー・トレインは身体の組織全体を結合し、機能を編成している筋膜系に焦点を当て、この筋膜系のマッピングと重力への姿勢適応に関する大きな意味を理解し、臨床応用への示唆を与えることを目的に書かれている。

本書において注意深く書かれ、明快地図示されたア

ナトミー・トレインとは、頭から足まで、また中心部から末梢までを結合しながら人体を蛇行する、骨と筋膜の連結であり、また安定性と運動に必要な重力と筋力の構成を統合する連結のことである。全身に張り巡らされた筋膜系の連結については、以前から知られていた。しかし、その機能的な意味については、局所的な機能解剖の範疇にとどまるものであって、全身的な運動機能との関連について網羅されてはいなかった。この連結に関するマイヤース氏の見解は多くの点で大変興味深い。マイヤース氏は本書の中で、筋・筋膜の連結体を Superficial Back Line, Superficial Front Line, Lateral Line, Spiral Line, Arm Line, Functional Line, Deep Front Line という 7 つの経線で示している。さらに、これらの 7 つの経線は、張力帯を形成し、骨のスペーサーからなるテンセグリティーモデルという格子状の圧縮-張力複合モデルを身体内部に構築しているとし、筋膜の張力バランスの正常化が骨構造間のアライメントの正常化、ひいては重力適応のコンディショニングを整えることを説明している。筋膜系の連続の経線の理解は、これまで理解できなかった局所の病態の原因を全身の機能不全と関連付けて推論することの手助けとなる知見といえる。それぞれの経線の持つ機能的意味合いと臨床的介入の事例が示されており、臨床で遭遇する症例に対する臨床推論の形成に、新しいアルゴリズムを与えてくれる。

本書は理学療法士の臨床にとって、大変有益な一冊であると考えられる。

●B5 判 296 頁

定価 6,090 円(本体 5,800 円+税 5%)

2009 年 医学書院・刊